

CASBEE-新築(簡易版)2008年版 アーケレイ株式会社 新サイエンスパーク		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)	
スコアシート 実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質					3.5
Q1 室内環境			0.40		3.3
1 音環境		3.0	0.15	-	3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-
2 設備騒音対策		-	-	-	-
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境		3.0	0.35	-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-
1 室温設定		3.0	0.38	3.0	-
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	3.0	-
5 温度・湿度制御		-	-	-	-
6 個別制御		-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-
8 監視システム		-	-	-	-
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境		3.0	0.25	-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-
2 方位別開口	対象外	3.0	-	3.0	-
3 昼光利用設備	昼光利用設備は特になし	3.0	0.40	3.0	-
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-
1 照明器具のグレア	対象外	-	-	-	-
2 昼光制御	カーテンウォール部等にもブラインドを設置し、昼光を制御	3.0	1.00	3.0	-
3.3 照度		3.0	0.15	-	-
1 照度		3.0	1.00	3.0	-
2 照度均斉度		-	-	-	-
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-
4 空気質環境		4.4	0.25	-	4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆に採用している	5.0	1.00	3.0	-
2 アスベスト対策		-	-	-	-
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-
4 レジオネラ対策		-	-	-	-
4.2 換気		3.6	0.30	-	-
1 換気量		4.0	0.33	3.0	-
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮		4.0	0.33	3.0	-
4 給気計画		-	-	-	-
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御	ビル全体の禁煙が確認されている。	5.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能		-	0.30	-	3.3
1 機能性		3.7	0.40	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40	-	-
1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペースが6m ² 以上を確保	3.0	0.33	3.0	-
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準(望ましいレベル)を満たしている	4.0	0.33	3.0	-
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-
1 広さ感・景観	事務室CH2.7m以上で十分な屋外情報を得られるようにガラス	4.0	0.33	3.0	-
2 リフレッシュスペース	建物全体が禁煙を前提としている	3.0	0.33	3.0	-
3 内装計画	照明計画と内装計画が一体として計画し内装計画段階で、具体	5.0	0.33	3.0	-
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計において、充実した取り組みが行われ	5.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保	十分なゴミの分別スペースの確保。トイレの清掃用流しを施設	3.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31	-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-
1 耐震性	建築基準法に定められた耐震性を有する。	3.0	0.80	-	-
2 免震・制振性能	免震・制振装置を導入していない。	3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.33	-	-
1 躯体材料の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律における鉄骨又はコンク	3.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁の補修必要間隔10年程度	2.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数20年以上のものを使用	5.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-

2.3 適切な更新				-	-	-	-
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上を確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重2900N/m2以上として設計	3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出		生物環境の保全と創出に関して配慮されており、比較的多くの取組が実施されている。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみや景観に対して、標準以上の配慮が行われている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		見通しのよいフェンスや低い生垣を設け、歩行者に対する防犯	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		評価する取組み表の評価ポイントの合計値が15ポイント以上	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制			4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=20.8	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		3.0	0.33	-	-	
2	断熱材	ODP=0の断熱材発泡剤を使用している。	3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			4.4	0.33	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	昼45dB以下、夜間40dB以下に抑えられている	3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭	評価対象外	-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	既存樹木の保存	3.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制	建物ボリュームを低くまとめた	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	